

ハチ公ってこんな犬だった?! - 犬の行動遺伝学 -

東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物学専攻
武内 ゆかり

1 万年以上も前からヒトとともに暮らしてきたイヌは、警戒心の高い野生動物であるオオカミが先祖種と考えられているにも関わらず、ヒトに馴れる性質やヒトが望む性質をもとに選抜繁殖されることにより、多様な形態と豊かな個性をあらわす動物となったことは驚きに値する。遺伝学の分野では、ヒトゲノムプロジェクトに続いて 2004 年にイヌゲノムプロジェクトが完了し、ハチ公（秋田犬）や柴犬といった日本犬種はオオカミといわゆる西洋犬種との中間に位置することが明らかにされた。また、認知行動学の分野においては、イヌがヒトの最良のパートナーになれた要因として、高い社会性やヒトとのコミュニケーション能力に着目して研究が進められ、こうした能力がイヌの家畜化の過程で獲得された生得的なものであると考えられるようになってきた。本講演では、イヌの行動遺伝学的研究について、人間との生活に支障をきたす問題行動に関する研究などにも触れながら紹介する。